一週間でマスターする

Adobe Illustrator 8.0



for Windows

[……吉岡　ゆかり 著……]

1 week master series

MYCOM

本書に登場する製品のスペック、価格などのデータは執筆時点でのものです。執筆以降に変更されている可能性があります。

本書の特徴と効果的な使い方

Adobe Illustrator 8.0は、デザインや印刷業界では標準的なグラフィックソフトです。本バージョンは、操作を容易にするための工夫が随所に見られ、初心者でも安心して使えるソフトになっています。描画機能も大幅に強化され、楽しい作品作りにも威力を発揮します。

本書は、こういったグラフィックソフトが初めてという方でも、安心してスタートでき、ステップアップできるように構成されています。図版に従って操作すれば、誰でもが作例を完成させることができるはずです。また、コラムやヒント欄では現場で役立つ内容も紹介しています。初心者だけでなく、中級者以上の方にも十分活用していただけると思います。

Illustratorの基本を最短距離で独修するために、本書をお役立ていただければ幸いです。

本書の特徴と効果的な使い方を以下にまとめます。

◆特徴1――月曜日から日曜日まで1日に1つの課題をマスター

1日に1つの課題を学習し、ステップアップしながら、1週間でIllustratorの基本的な操作から応用まで確実にマスターできます。

◆特徴2――1日のメニューは課題とコラムで構成

課題をとおして基本的な操作を習得し、コラムで実践に必要な知識を幅広く身につけることができます。

◆特徴3――それぞれの課題は、すぐに役に立つ実践例が中心

毎日の課題は、すぐに役立つ実践例が中心です。本書をマスターすれば、Illustratorを思いのままに使いこなすことができるようになります。

◆特徴4――素材CD-ROM付きだから、用意するものは本書だけでOK！

特別付録CD-ROMに、本書の作例製作で使われている画像素材を、すべて収録しました。CD-ROMの素材を使って、今すぐ学習を始めることができます。

本書が入り口となって、読者の皆さんが便利なIllustratorを効果的に使いこなしていくことを願っています。

CONTENTS

特別付録CD-ROMの使い方

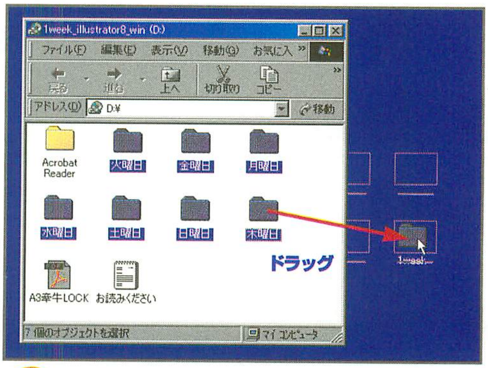
●素材データの使い方

特別付録CD-ROMには、本書で作成するサンプルに使用している素材データと、サンプルの完成見本が収録されています。

素材データは各曜日ごとに分けられています。素材をご利用の際は、作業に必要なファイルをハードディスクにコピーしてお使いください。ハードディスクに適当なフォルダを作り、そこにCD-ROM内のフォルダすべてをドラッグしてコピーしておくとよいでしょう。



1 CD-ROMを入れてマイコンピュータを開くと、CD-ROMドライブ名が「1WEEK_Illustrator8」になります。ダブルクリック（またはクリック）で開きましょう。



2 CD-ROMの中身です。「月曜日」フォルダから「日曜日」フォルダまでを選択し、フォルダすべてをドラッグ&ドロップでコピーします。

なお、収録されている素材データは、本書での学習以外には使用しないでください。印刷物、ホームページ等への素材データの無断転載を禁じます。

素材提供：山崎　理（image dive）

DigitalVision™

●Adobe Acrobat Readerの使い方

特別付録CD-ROMには、サンプルとして牽牛氏の作品がPDFファイルで収録されています(233ページ参照)。このサンプルを見るにはAdobe Acrobat Readerが必要になります。

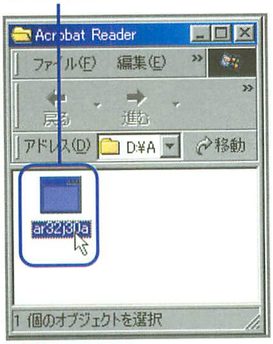
特別付録CD-ROMにはAdobe Acrobat Readerが収録してありますので、ご自分のコンピュータにAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、特別付録CD-ROMからインストールしてください。

ダブルクリック

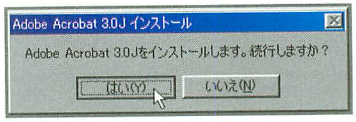


❶ CD-ROM内の「Acrobat Reader」フォルダをダブルクリックで開きます。

ダブルクリック



❷「ar32j30a」をダブルクリックします。



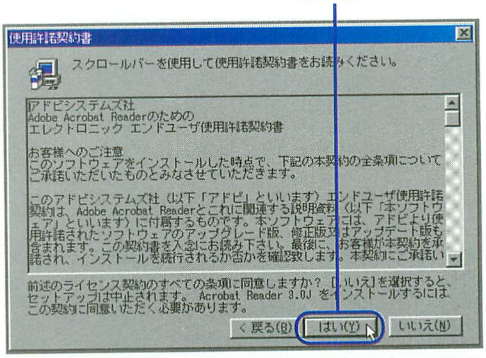
❸ インストール開始のダイアログボックスが開きますので、「はい」をクリックしてインストールを続行します。

クリック

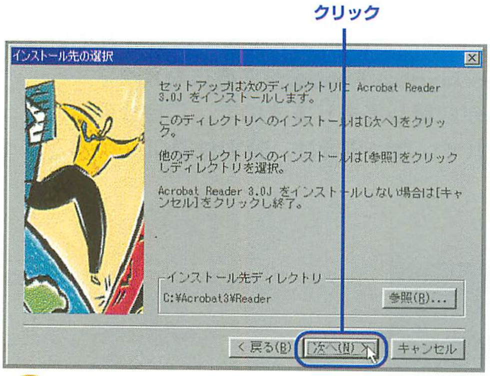


❹ インストールが開始されます。「次へ」をクリックしてください。

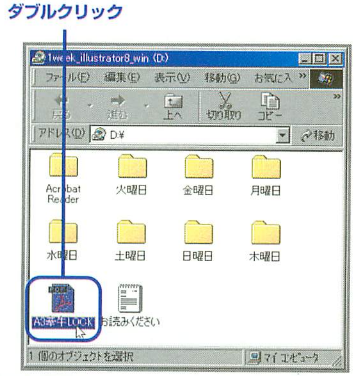
クリック



❺「使用許諾契約書」の画面になります。内容をよく読んでから「はい」をクリックします。



6 インストール先を確認して「はい」をクリックします。インストールが開始されますので、あとは画面の指示に従ってインストールの作業を終了させてください。



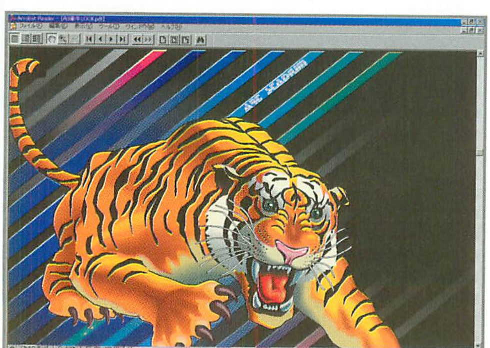
7 特別付録CD-ROM内の「A3牽牛LOCK.pdf」をダブルクリックします。



8 Acrobat Readerが起動し、パスワードを聞いてきますので、半角大文字で「OPEN」と入力し「OK」ボタンをクリックします。



9 「A3牽牛LOCK.pdf」ファイルが開きます。「次ページを表示」ボタン▶をクリックして、ページを進めてください。



10 サンプルが表示されます。



1 WEEK MASTER
1st DAY !!!

Monday



今日マスターすること
TODAY'S GOAL !!!

これがIllustratorだ

STEP 1 ••(Illustratorってどんなソフト？

STEP 2 ••(Illustratorを起動してみよう

STEP 3 ••(Illustratorに慣れる

1 WEEK MASTER
1st DAY !!!
Monday

STEP 1

Illustratorってどんなソフト?

これがIllustratorの得意分野

Adobe Illustrator（アドビイラストレータ。以下Illustrator）は、プロ向けのグラフィックソフトとして定評のあるソフトです。現在はWindows版、Macintosh版ともに8.0が最新バージョンです。

Illustratorは、図形を組み合わせてイラストやダイアグラムを作るのが得意なアプリケーションです。どちらかというとカチッとしたイメージのグラフィックを作るのに適しています。図形を作るための道具（ツール）の使い方さえ修得すれば、手で作業するより速く、きれいに仕上げることができます。そのまま印刷用の原稿にできるほど品質は高いものです。また、Photoshopなど他のアプリケーションソフトと組み合わせて使えば、表現力もぐんと広がります。

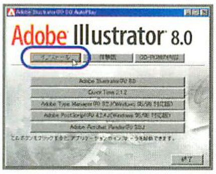
こんなに有名なIllustratorですが、使い始めの人にとっては、難しいとか面倒くさいと思われがちです。Illustratorは自動的にイラストを描いてくれるわけではなく、描くのは自分です。これはIllustratorに限ったことではありませんが、アプリケーション修得の早道は、「目的意識がはっきりしていること」に尽きると思います。自分のやりたいことがはっきりしている人は、あっという間に使いこなしちゃいます。Illustratorを始める前に、自分はIllustratorで何がしたいのか、ちょっと考えてみてください。そのお手伝いをするのがIllustratorなのです。

「そう言われたって、Illustratorで何ができるのかわからないんだもん」とおっしゃる人もいるでしょうね。では、どんなことができるソフトなのか、また最新バージョンではどこがよくなったのかを簡単に説明してみますね。

ヒント!!

Illustratorのインストール

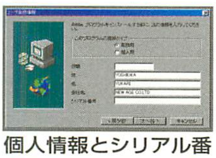
CD-ROMからIllustratorをインストールする方法を紹介します。



アプリケーションCD-ROMを入れると、インストーラが開きます。インストールするものを選択して「インストール」ボタンをクリックします。



インストールの方法は「標準」でOKです。「カスタム」を選ぶと、インストールするものを選択することができます。



個人情報とシリアル番号を入力します。このあとは画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Adobe Illustrator

Illustratorは、AdobePhotoshopなどでお馴染みのアドビシステムズ社のドローイングソフト。もともとはMacntosh版として開発され、ウィンドウズ版は4.0から。

どんなことができるのか

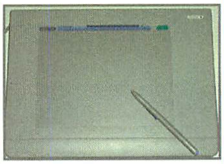
イラストを描く

図形を組み合わせたり、フリーハンドでイラストを描いたりできます。マウスの代わりに筆圧感知タブレット＆ペンを使えば、手描きタッチのイラストだって描けるのです。バージョン8.0になって描画機能も充実したので、これまで以上にIllustratorの活躍場面が増えそうです。

☞ヒント!!

筆圧感知タブレット＆ペン

ペンタイプの手描き入力装置。手のひらサイズの小さいものでは、のびのびしたラインが引けません。大きすぎても、腕が疲れてしまいます。自分に合ったサイズを選びましょう。



ロゴを作る

図形を組み合わせてロゴ（図案文字）を作ったり、普通の文字を変形させることでデザイン文字を作ることができます。ロゴ作りに欠かせない文字のアウトライン機能もあります。特殊変形の機能と組み合わせれば、一瞬にして派手なタイトルロゴなんかも作れます。できたロゴをGIF形式やJPEG形式で書き出せば、インターネットのホームページにも使えます。

写真を取り込む

Photoshopなどの画像編集ソフトで加工した写真や、デジタルカメラで撮った写真を取り込むことが可能です。ポストカードやCDジャケットなどを作成するときも、PageMakerなどのレイアウトソフトのお世話にならなくても、Illustratorさえあれば写真とロゴやイラスト、そして文字を組み合わせたデザインができるのです。

☞画像編集ソフト

Illustratorのように図形単位で処理するソフトではなく、ビットマップで画像を処理するタイプのソフトのこと。Illustratorもバージョン7.0からビットマップを扱えるようになっていますが、写真合成などを行うには、画像編集ソフトが必要です。



▲ロゴ作りに役立つ機能がいっぱい。



▲写真を取り込んだり、文字を入力したり、レイアウトソフトとしても大いに活躍してくれます。

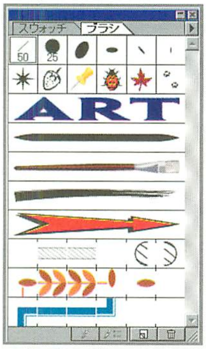
8.0の注目の新機能

ここで、新バージョンの8.0になって追加された、気になる新機能を見てみましょう。私の印象では、「初心者に優しい」とか「描画ツールが充実して楽しさが一段とアップ」という見出しを付けたくなるような、そんなソフトに生まれ変わっています。インターフェースはそれほど大きく変わっていませんが、使いごこちが大幅に変わりました。これまではプロ受けするインターフェースだったため初心者には難しい部分もありましたが、8.0では感覚的に操作できるように改善されています。フレンドリーな性格になったという感じです。

描画機能の充実

●ブラシツールとグラデーションメッシュツール

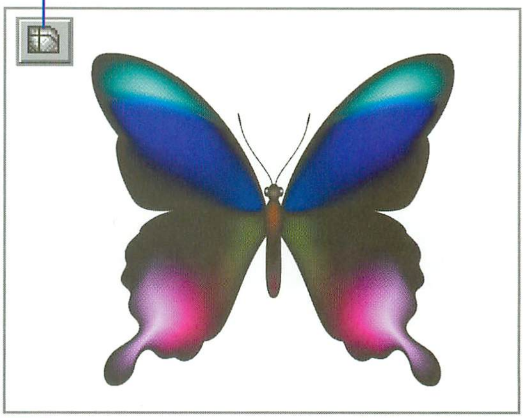
楽しいツールが用意されました。ブラシツールは初心者から上級者まで楽しめて、手描きのタッチなど表現力も広がっています。また、これまでのドローソフトの概念を打ち砕くような描画ツールとして登場したのが、グラデーションメッシュツールです。複数のグラデーションをさまざまな方向で表現することが可能になりました。これまでのバージョンで同様の表現をするときと比べて、データ容量が少なくて済むのもうれしい点です。



◀ブラシパレット。ほかにもブラシの種類がたくさん用意されています



1 ブラシツールで描けるのは、ただの線だけではないのです。こんな模様や、筆先のかすれ具合を生かした表現が可能になりました（水曜日と日曜日に使ってみます）。



2 グラデーションメッシュツールで表現力もアップ！ひとつの図形の中にさまざまな色のグラデーションを入れられるなんて、前バージョンまでは想像もできなかったことです（日曜日に使ってみます）。

初心者に優しい新機能

- ●バウンディングボックスの採用で、感覚的に大きさの変更も自在
- ●アクションパレットで、高度なテクニックも自動で操作

ちょっと遅すぎたくらいですが、図形や文字の形は、いちいち拡大・縮小ツールに切り替えなくても、その周囲に現れるバウンディングボックスのハンドルをドラッグして、簡単に行えるようになりました。またアクションパレットを使えば、複雑な操作もオートマティックにやってくれるので、効率的で本当に楽ちんです。

互換性も大幅アップ

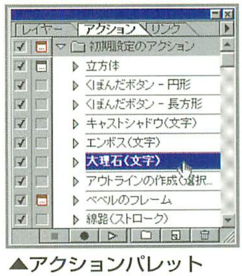
- ●レイヤー情報を維持したままPhotoshopへ書き出しが可能
- ●DXFやPDF形式に対応

Photoshopとの連携が、ますますスムーズに行えるようになりました。Illustratorで作成したレイヤーがそのままPhotoshopでも使えるようになったのです。またCAD（設計図を作るソフト）では一般的なファイル形式の「DXF」のファイルも読み込めるし、PDF形式のファイルも直接開けるなど、他のアプリケーションと組み合わせて使うための機能が追加されました。これからはIllustratorを、もっともっとインダストリアルデザインとかビジネスユースにも利用できます。

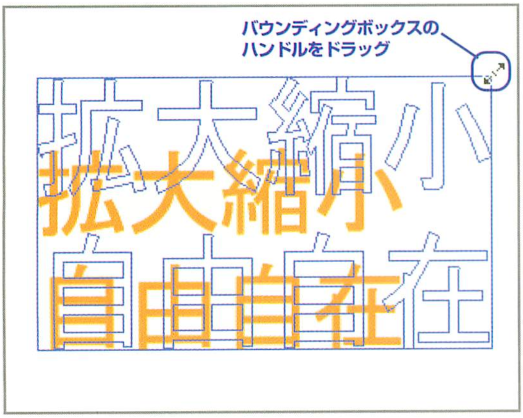
☞ヒント!!

Photoshopへの書き出し

Illustratorのレイヤー情報を維持したままPhotoshopへ持っていくとき、Photoshop 5.0形式に書き出しますが、もちろん5.0以前のバージョンで開いたときもレイヤー情報は維持されています。



▲アクションパレット



3 図形や文字を選択すると、その周囲にバウンディングボックス（図の水色のライン）が現れ、それをドラッグすることで大きさを自由に変えられます。感覚的に大きさを変えられるのがうれしいですね。



4 複雑な操作もボタンひとつで自動的に行ってくれるアクション機能。アクションパレットの「大理石」を選び、スタートボタンを押して数秒待つと、ただの文字が大理石文字に早変わりしてくれます。

1 WEEK MASTER
1st DAY !!!
Monday

STEP 2 Illustratorを起動してみよう

☞ヒント!!

初期状態に戻す

Illustrator8.0をすでに何回か使っていて、いろいろな設定をしてしまったという方も多いと思います。インストール直後の状態に戻すには、Illustrator8.0がインストールされた「Program」フォルダ（通常は「Program Files」の「Adobe 」の中にある「 Adobe Illustrator 8.0J」フォルダ）にある「AIPrefs」ファイルを他のフォルダに移動すればOKです。その後、Illustratorを起動し直せば初期画面にすることができます。



▲初期設定ファイルは捨ててしまわないで、別のフォルダを作って、バックアップしておきましょう。元の位置に戻せば、以前使っていた状態に戻すことができます。

初期画面

それでは実際にIllustratorを起動してみましょう。特別付録CD-ROMの月曜日フォルダの「起動画面」というデータを開いてください。次のような画面が出てきます。全体をざっと見回してみましょう。



1 Illustrator8.0の起動画面です。

ツールボックスの使い方と各種ツール

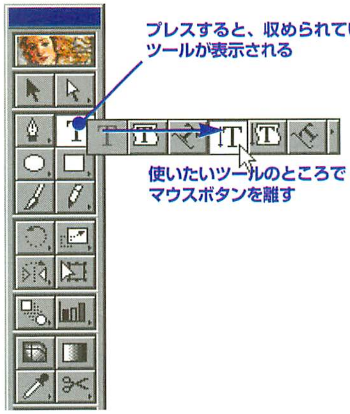
ツールボックスの基本的な使い方を練習してみましょう。

ツールボックスの移動、非表示、ツールの選択



1 ツールボックスを消したいときは、「表示」メニューの「ツールを隠す」を選びます。ツールを選択するには、ツール上でクリックします。選択されたツールは反転表示となります。

ツールの切り替え方

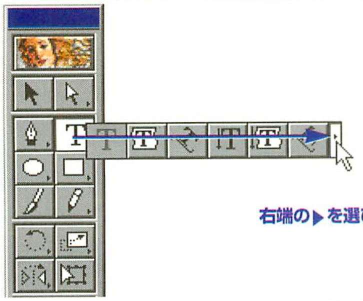


2 ▶マーク付きのツールには、複数のツールが収められています。プレスすると他のツールが表示されますので、そのままドラッグして、使いたいツール上で手を離します。

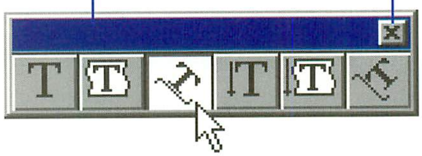
☞新機能!!

ツールの切り離し

▶マーク付きのツールは、ツールボックスから切り離すことができます。ツールの切り替えを頻繁に行う場合には切り離して使いましょう。8.0からの新機能です。



3 ▶マーク付きのツールは、ツールボックスから切り離すことが可能です。ツールを表示させた状態で、右端の▶をクリックすると、ツールが独立します。

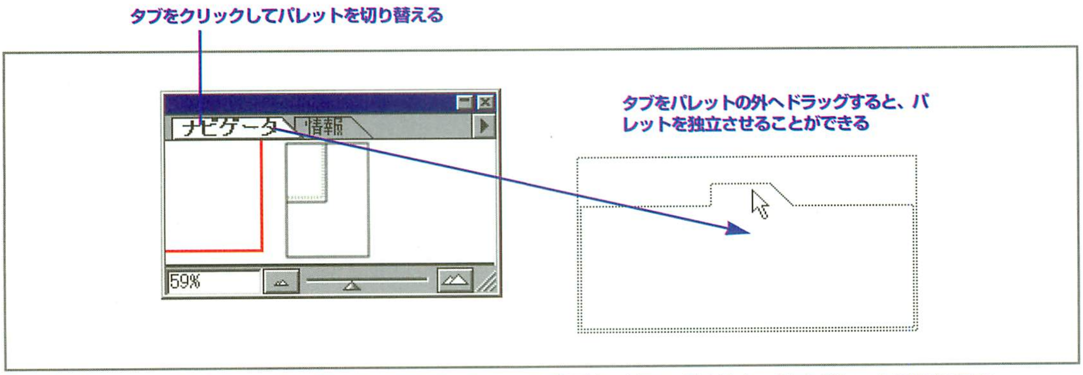


4 切り離されたツールも、ツールボックスと同様に操作できます。元のツールボックス内に戻したいときは、クローズボックスをクリックしてください。

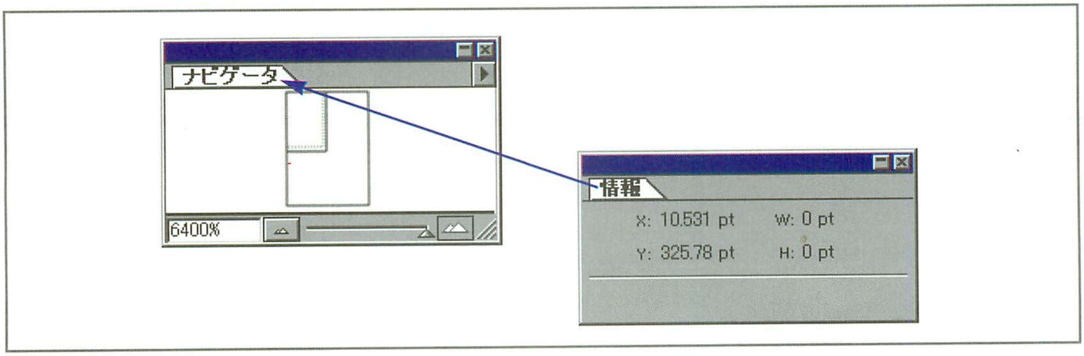
自由変形ツール	バウンディングボックスをドラッグすることで、拡大縮小、回転を自由に行える
ブレンドツール	複数のオブジェクトを指定したステップ数だけ色、形の中間を作り出す。前バージョンまでは2つのオブジェクトに対してしか実行できなかったが、8.0から複数のオブジェクトに対してのブレンドが可能になり、ステップ数やオブジェクトの形状を変更できる点が新しい
オートトレースツール	グレースケールの下絵をクリックして、自動的にトレースする
棒グラフツール	数値を入力するか、数値データを読み込んで棒グラフを作る
積み上げ棒グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで積み上げ棒グラフを作る
横向き棒グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで横向き棒グラフを作る
横向き積み上げ棒グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで横向き積み上げ棒グラフを作る
折れ線グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで折れ線グラフを作る
階層グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで階層グラフを作る
散布図	数値を入力するか、数値データを読み込んで散布図を作る
円グラフ	数値を入力するか、数値データを読み込んで円グラフを作る
レーダーチャート	数値を入力するか、数値データを読み込んでレーダーチャートを作る
グラデーションメッシュツール	1つのオブジェクトを分割してグラデーションを描画できる
グラデーションツール	ドラッグして、好きな方向に好きな長さでグラデーションをつける
スポイトツール	画面上の色をクリックして描画色に適用。8.0から、文字に対する設定も覚えることも可能に
塗りつぶしツール	クリックして描画色を塗る。8.0から、スポイトツールで覚えた文字設定を文字列に適用
はさみツール	パス上をクリックしてパスを切断する
ナイフツール	ドラッグしてオブジェクトを好きな形に切る
手のひらツール	ドラッグして、画面の表示位置をずらす
ページツール	ドラッグしてページそのものを動かす。画面に描かれたものをページ内に収めるときなどに使用
ものさしツール	ドラッグして、ドラッグ分の距離や傾きを情報パレットに表示
ズームツール	クリックして段階的に、見たい部分を拡大する。Altキーと併用で縮小表示

パレット操作と各種パレットの説明

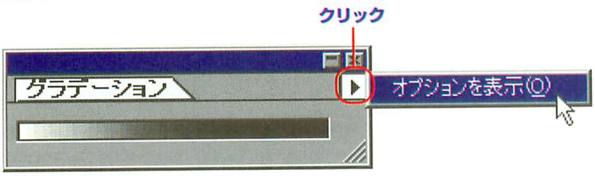
どんなパレットがあるのかも確認しておきましょう。パレットはタブで切り替えるようになっています。また、切り離したり、反対に他のパレットとドッキングさせることも可能です。文字関連の4つのパレットは「文字」メニューに収められていますが、それ以外は「表示」メニューで出したり、消したりします。



1 パレットはタブをクリックして切り替えます。また、タブを外へドラッグすると、独立パレットになります。



2 独立したパレットをまとめるときは、タブタブの右側へそのタブをドラッグします。



3 ここではパレットメニュー（パレット右上の▶をクリックして開く）で「オプションを表示」を選んだ状態で説明しています。

パレットの名称と機能



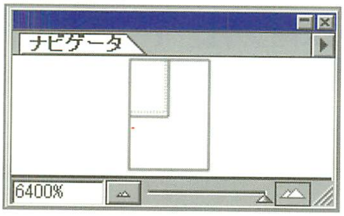
▲「変形」パレット
図形や文字の位置、サイズなどを数値で確認し、変更できます。



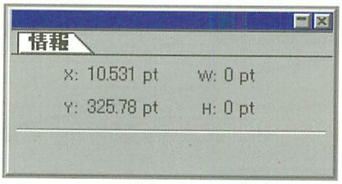
▲「整列」パレット
複数の図形の位置関係をコントロールします。



▲「パスファインダ」パレット
複数の図形を組み合わせて、新たな形を作り出す機能が収められています。



▲「ナビゲータ」パレット
表示範囲の確認、画面表示サイズの変更などを行います。



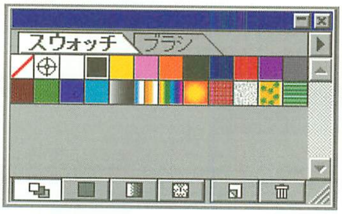
▲「情報」パレット
選択している図形の位置や傾きなどを数値で表示してくれます。ただし確認するだけで、数値の変更はできません。



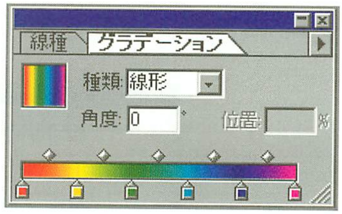
▲「属性」パレット
オーバープリントなど印刷にまつわることや、画面表示に関することを設定します。



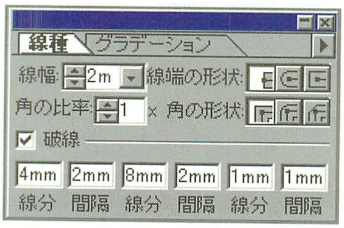
▲「カラー」パレット
数値、またはパレット下のカラーバーをクリックして、色を選択します。塗りと線の両方の色を設定できます。



▲「スウォッチ」パレット
色、グラデーション、パターンなどを登録したパレット。パレット内の色をクリックして選択します。



▲「グラデーション」パレット
グラデーションの作成や編集を行います。



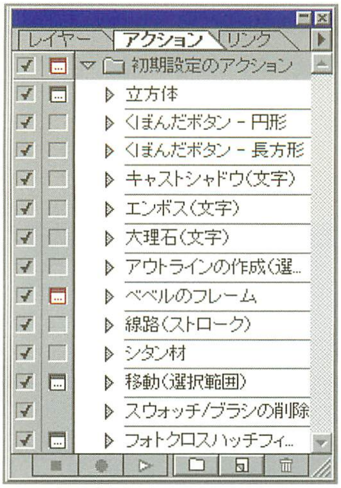
▲「線種」パレット
線幅や点線などの設定を行います。



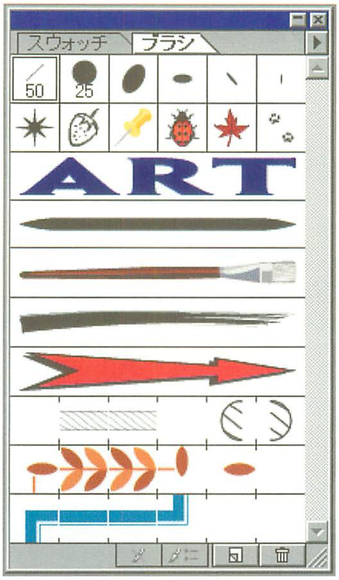
▲「レイヤー」パレット
レイヤーのコントロールを行うパレットです。



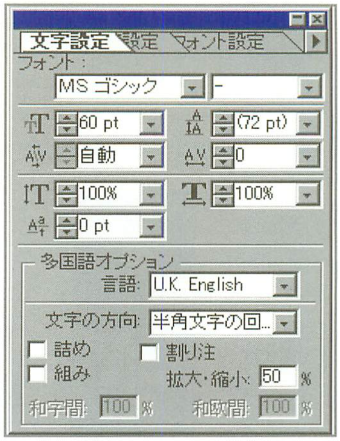
▲「リンク」パレット
他のアプリケーションのデータを配置した場合に、ファイル名の確認などを行います。



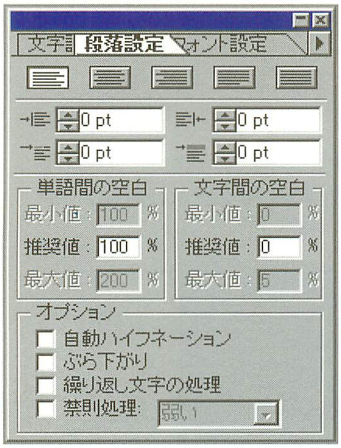
▲「アクション」パレット
一連の操作を登録して、実行するためのパレットです。



▲「ブラシ」パレット
ブラシツールで作成する筆先のパターンを選びます。



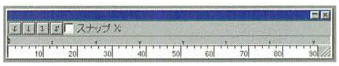
▲「文字設定」パレット
フォント、サイズ、文字間隔の設定などを行います。「文字」メニューの「文字設定」で表示されるパレットです。



▲「段落設定」パレット
行ぞろえやぶら下がりなどの設定、編集を行います。



▲「MMフォント設定」パレット
MM（マルチプルマスター）フォントのサイズやウエイト（太さ）を編集できます。

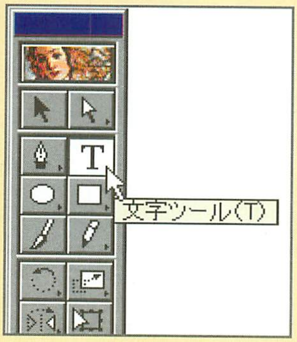


▲「タブルーラパレット」
ルーラー上をクリックしてタブを設定します。タブは文章の頭や、数字のカンマの位置をそろえるときに便利な機能です。「文字」メニューの「タブルーラ」で表示します。

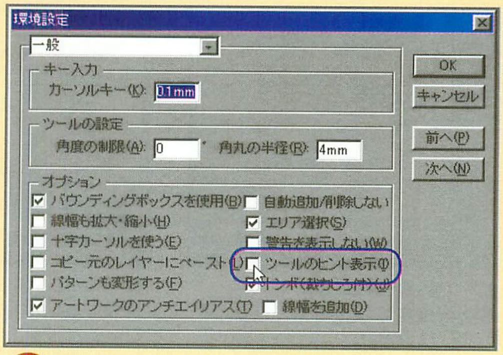
ちょっとコラム ツールとパレットのTips

Illustratorで作業をするうえで、ツールやパレットは欠かせない存在です。より効率的に作業を進められるような工夫がされていますので、紹介しておきましょう。慣れてきたら自分のペースに合わせて使ってみてください。

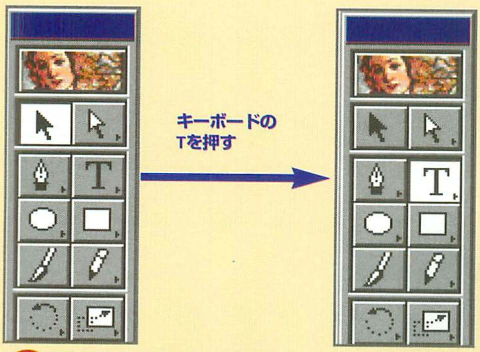
●ツールのヒント表示とショートカット



1 マウスポインタをツールの上に持っていくと、そのツールの名称が表示されます。これは「ヒント」という機能です。



2 慣れてきてヒントがじゃまになったら、出さないようにすることも可能です。「ファイル」メニューの「環境設定」を選択し、「一般」で「ツールのヒント表示」のチェックボックスをクリックし、チェックをはずせばいいのです。

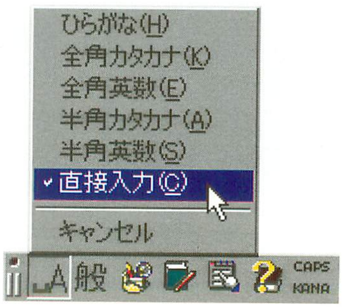


3 「ヒント」を表示させたとき、ツール名の後ろにあるアルファベットがあるのは何だと思いますか？これはツールのショートカットです。たとえば選択ツールを使用中に、文字ツールに切り替えたくなったら、文字ツールを選択する代わりに、キーボードのTキーを押してもいいのです。ただし、入力モードが英語になっているときだけ有効です。

☞ヒント!!

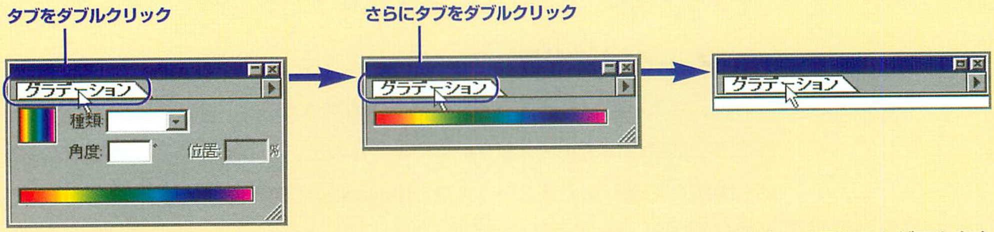
入力モードの切り替え

入力モードの日本語と英語の切り替えは、「Alt」キーを押しながら「半角／全角」キーを押します。

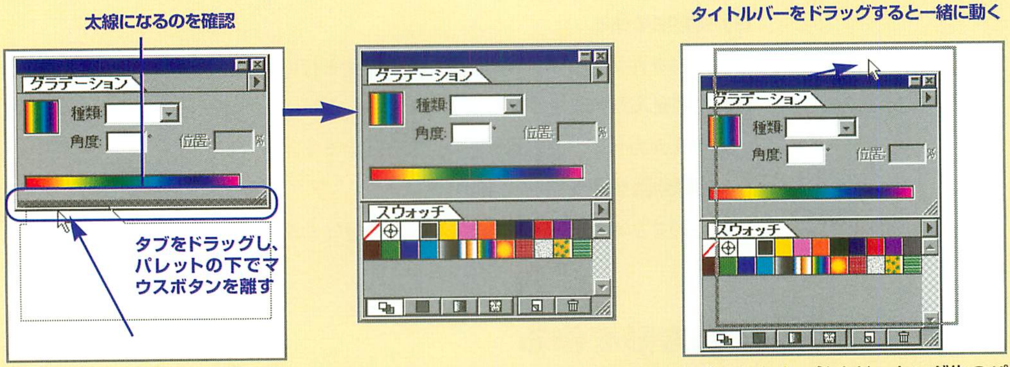


●パレットの使いこなし

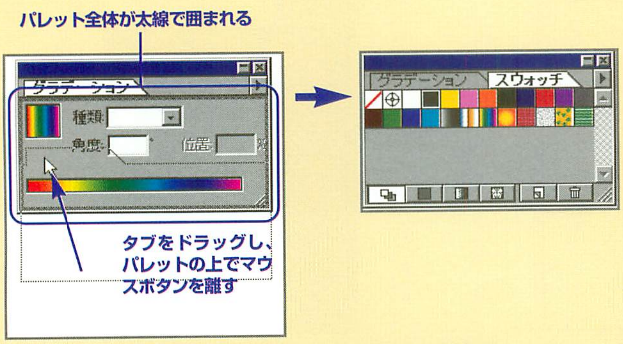
パレットの大きさを変更したり、複数のパレットをひとつにまとめる方法を紹介しましょう。



1 タブをダブルクリック（またはズームボックスをクリック）すると、パレットを小さく畳むことができます。じゃまなときはこれで畳んでしまいましょう。



2 タブをドラッグすることで、他のパレットの下にドッキングさせることができます。必ずドッキング先のパレットの下部分が黒い太線になってから、マウスボタンを離してください。一緒に使うことの多いパレットは、こうしてまとめておくと便利です。



3 また、タブをドラッグして他のパレットに重ねると、パレットがひとつにまとめられ、タブが並びます。必ずドッキング先のパレットが黒枠線で囲まれてから、マウスボタンを離してください。

1 WEEK MASTER
1st DAY !!!
Monday

STEP 3 Illustratorに慣れる

マークの手順

さて、いよいよ作業に入ります。いきなりですが、マークを作ってみましょう。色や文字は自由にアレンジしてかまいませんので、とにかく今日は楽しんでください。操作を完璧に覚えるというより、Illustratorの操作感覚に慣れるのが今日の最大の目的です。

手順をざっと確認しておきましょう。

(1) 長方形を作る

長方形を作って、大きさの調整、色の設定を行います。

(2) 文字を入力する

文字を入力して、大きさや色の設定を行います。

(3) 特殊効果を使う

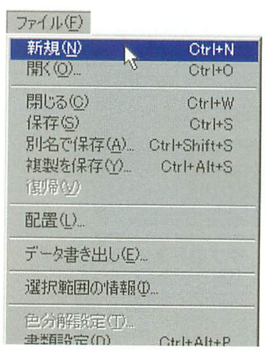
長方形をリボン状に変形させたり、影を付けてみます。

長方形を作る

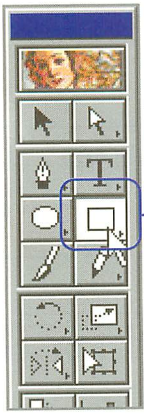
長方形を作る方法は何通りかありますが、ここではもっとも簡単な方法、長方形ツールを使って作成します。それから色の設定を行います。



▲こんな感じのマークを作ってみましょう。



1 新しい用紙を出しますので、「ファイル」メニューの「新規」を選んでください。

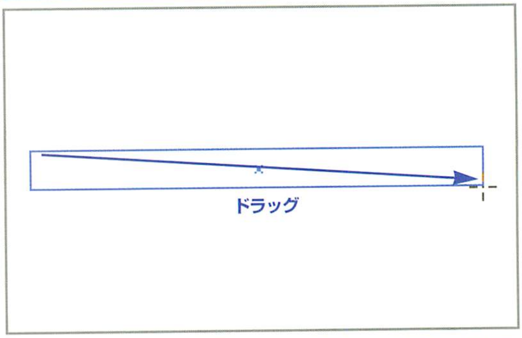


2 まず長方形を描く練習です。ツールボックスから長方形ツールを選んでください。

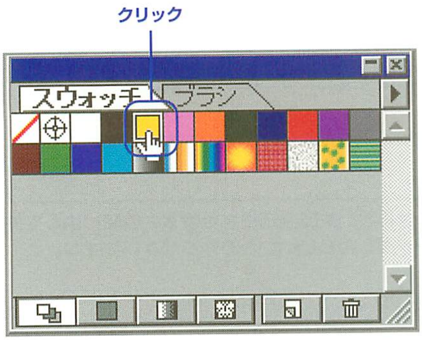
ここがポイント!!

ハンドル表示は図形が選択されている印

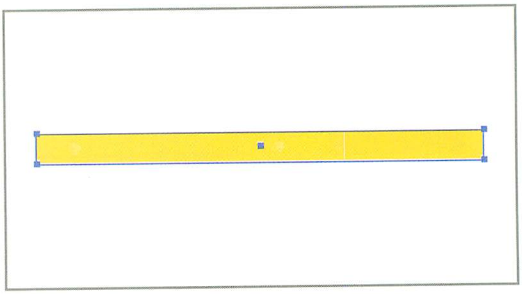
長方形を描き終わると、長方形の周囲に小さい四角が表示されます。この小四角を、Illustratorではハンドルと呼びます。ハンドルは図形が選択されていることを意味します。長方形を移動したり、色を変更したりなどの編集作業を行う場合は、その長方形が選択されている必要があります。ここでは次に色を変更しますので、選択を解除しないで操作を続けます。



3 大きさはあとで変更できますので、とりあえず適当でかまいません。ドラッグして横長の長方形を作ってみましょう。



4 長方形が選択されている状態のままで、スウォッチパレットから適当な色をクリックします。

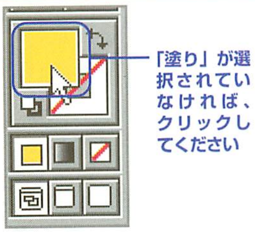


5 長方形に色がつきましたよね。

☞ヒント!!

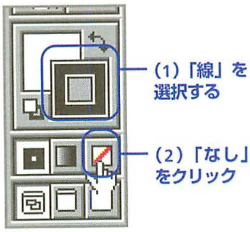
図形の色が変わらない?!

図形の色が変わらないときは、ツールボックスの「塗り」と「線」を確認してください。「塗り」が選ばれていないと、長方形の色は変わりません。



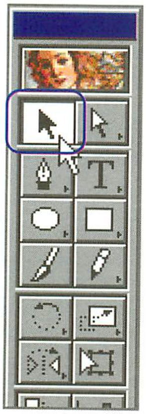
線の色を「なし」にする

作成した長方形の線に色がついている場合は、ツールボックスの「線」を「なし」にしてください。

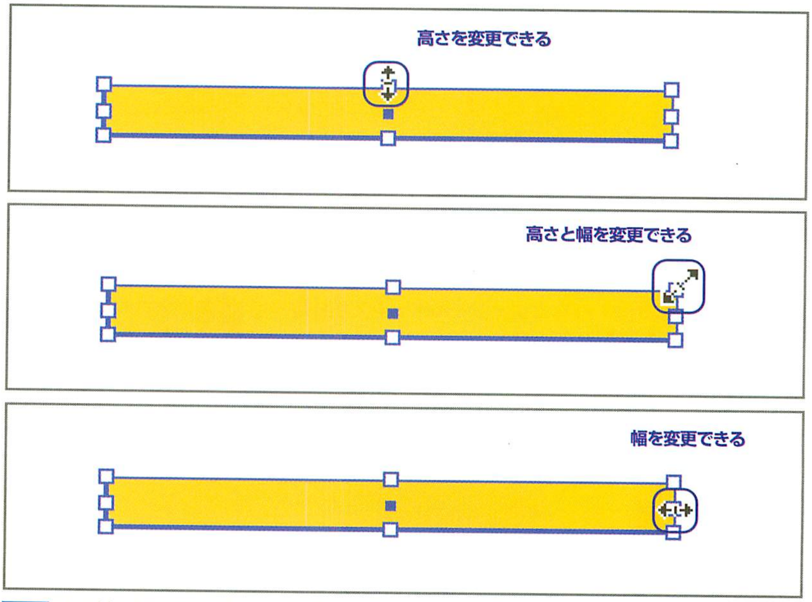


大きさを変える

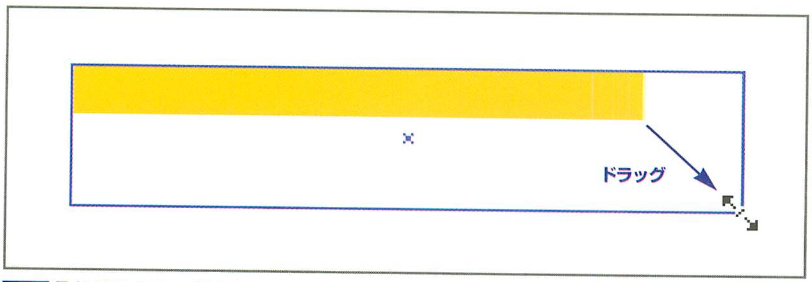
長方形の大きさを調整しましょう。数値で正確にサイズを指定するやり方もあるのですが、ここではドラッグして適当な大きさに変更します。Illustrator8.0から新登場のバウンディングボックスを使ってみましょう。マウスポインタに注目しながら練習してください。



1 ツールボックスから選択ツールを選びます。



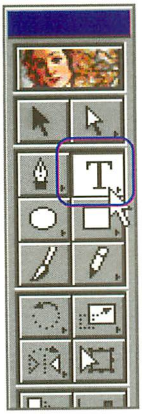
2 ハンドルにマウスポインタを合わせると、矢印表示になります。位置によって矢印の方向が違うので、どの方向へドラッグしたらいいかがわかりやすいですね。



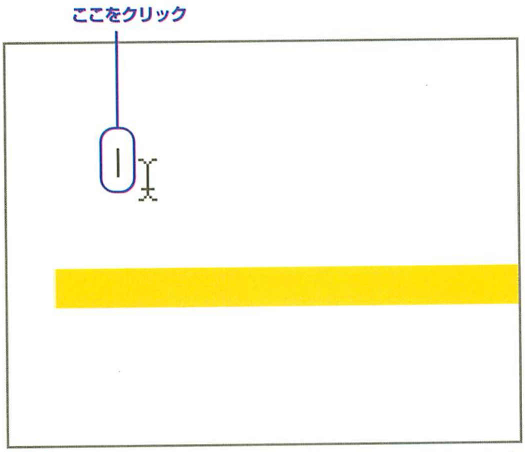
3 それぞれのハンドルをドラッグして、大きさを変える練習をしてみましょう。

文字を入れる

文字の入力方法は、基本的にはワープロなどと変わりません。ただし、どこから入力するのかを最初に指定することを忘れずに行ってください。文字の訂正のしかたなどもワープロと同じですが、ここではいい加減な文字でかまいません。キーボード入力が不慣れなら、数字などを入力してもいいですよ。



1 ツールボックスから文字ツールを選びます。



2 文字を入力します。文字ツールで文字の始まりとするところをクリックします。先ほど描いた長方形よりちょっと上に、文字を入れてみましょう。

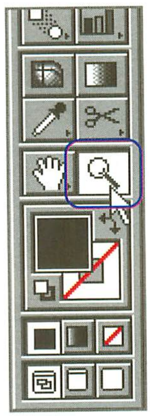
☞ヒント!!

日本語の入力

日本語入力のときは、変換前の未確定文字がインライン表示されません。



3 適当な文字を入力してください。自分の名前でも何でも結構です。英語でも日本語でも、どちらでもかまいません。

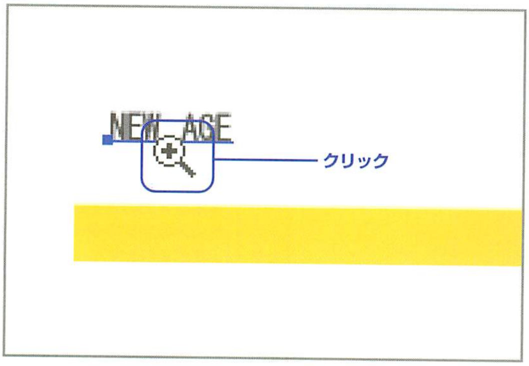


4 初期設定では文字の大きさが12pt（ポイント）となっています。ちょっと小さいですよね。拡大表示にしましょう。ツールボックスからズームツールを選んでください。

ここがポイント!!

ズームツールの使い方

ズームツールは見たい部分をクリックして、画面表示を大きくするツールです。クリックした部分を中心にズームアップされるので、確実に見たいところの上でクリックするようにしてください。見たい部分をドラッグして囲む方法もあります。大きくなり過ぎてしまったら、「画面」メニューの「全体表示」で元の大きさに戻せます。

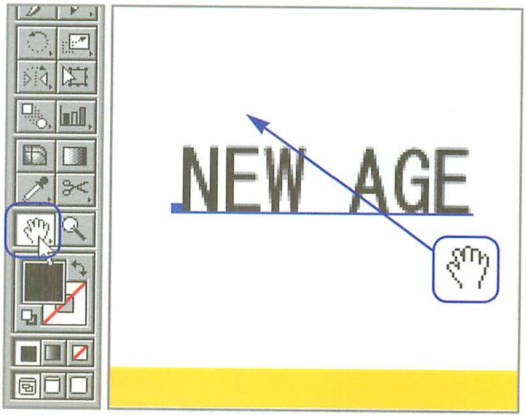


5 見たい部分をクリックします。少しずつズームアップされます。作業しやすい大きさになるまでクリックしてください。

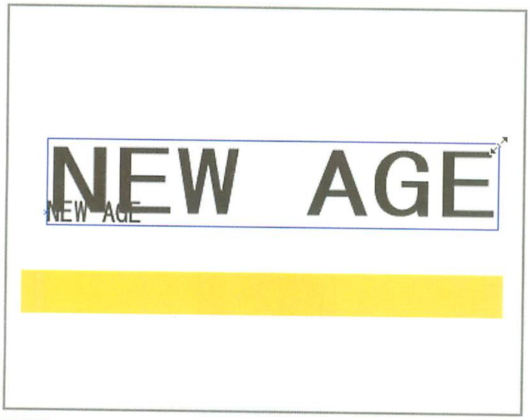
ここがポイント!!

手のひらツール

画面に表示されている範囲を動かすときに便利なのが手のひらツール。上の方を見たければ、下にドラッグします。紙を手でずらして動かす感覚です。



6 見たいところがちょっとずれてしまった人は、ツールボックスから手のひらツールを選んで、画面をドラッグしてください。文字がなるべく画面の中央に来るようにしましょう。



7 ツールボックスから選択ツールを選びます。文字の周りにハンドルが表示されますので、長方形と同様、ハンドルをドラッグして大きくしてください。ハンドルが表示されていないなら、文字をクリックして選択状態にすると現れます。



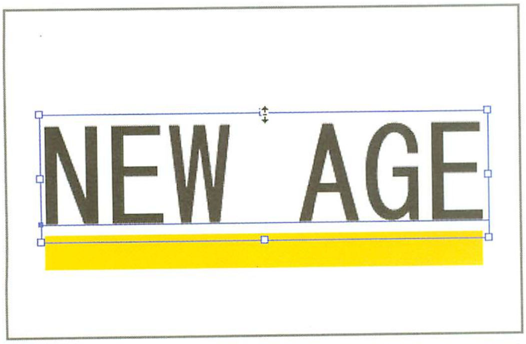
8 次は位置を変更する練習です。ハンドルではなく、なるべく文字の中央部分をつかんで、ポインタが▶になったときにドラッグしてみましょう。文字を動かすことができるはずです。

ちょっとコラム アウトラインフォント

フォントにはビットマップフォントとアウトラインフォントの2種類があります。アウトラインフォントは輪郭が滑らかに表示されるフォントで、TrueTypeフォントやPostScriptフォントがこれにあたります。Illustratorではアウトラインフォントしか使用できないようになっていますので、フォントの種類については、気にせず作業できるはずです。後半の章で登場する、「文字のアウトライン作成」を実行できるのも、これらのアウトラインフォントだけです。

Illustratorで使えるPostScriptフォントは「ATMフォント」と呼ばれるものです。ATMフォントを使うには、IllustratorのCD-ROMから「Adobe Type Manager(R)3.2J」をインストールしておかなければなりません。これはATMフォントをきれいに表示、印刷するプログラムです。ATMフォントは別購入する必要があり、「スタート」メニュー→「プログラム」→「Adobe」の中にある「ATMコントロールパネル」でフォントの追加作業をする必要があります。ATMフォントはIllustratorのパッケージに入っている、Adobe Type on Callで参照、購入できます。

なお、ATMフォントにはMacintosh用とWindows用のものがあります。WindowsではMacintosh用のATMフォントは使えないので注意してください。



9 文字の大きさや位置を変えて、最初に作った長方形の幅に合うように調整してください。続けて文字の編集を行いますので、文字は選択状態のままにして、次へ進みましょう。

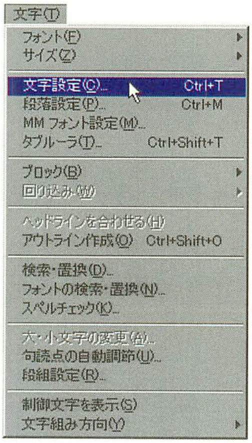
ここがポイント!!

大きさの変更と位置の変更

図形や文字を選択ツールで選ぶと、周囲にハンドルが表示されます。ハンドルをドラッグすることで大きさを自由に変更できるのは、実は8.0になってからです。このおかげで、拡大・縮小の操作がとても簡単になりました。ハンドルはあくまでも大きさを変えるものです。位置を動かすときは、ハンドル以外の部分をつかんでドラッグしてください。

文字の編集

文字の基本的な編集作業を行ってみましょう。ここでは、フォントと文字色を変更します。フォントは文字設定パレットで、文字の色は図形と同様、スウォッチパレットで行います。図形の編集と少し違うのは、文字の設定には選択ツールを使う場合と、文字ツールを使う場合とがあるところです。文字全体に設定するときは選択ツールで行い、文字を個別に設定する場合は文字ツールを使います。



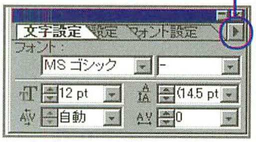
1 「文字」メニューから「文字設定」を選んで、文字設定パレットを出してください。

☞ヒント!!

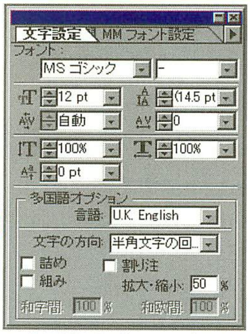
文字設定パレットのオプション表示

文字設定パレットがオプション表示になっていると、設定項目がもっとたくさん現れます。ここではフォントを変更するだけなので、オプション表示になっていなくてもかまいません。ちなみにオプション表示・非表示の切り替えは、タブ右側の▶をプレスして行います。

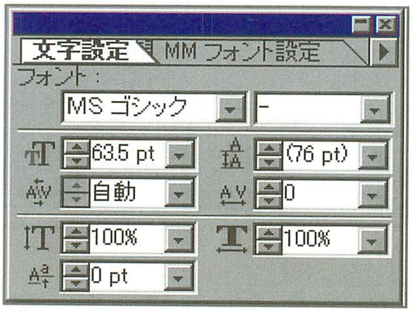
ここをクリックして オプションを表示する



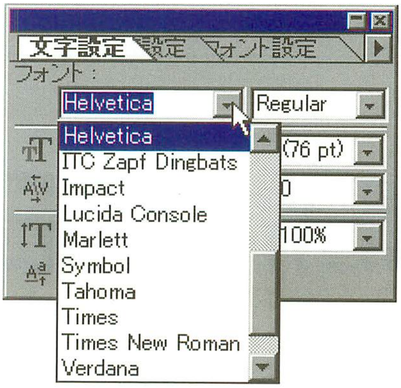
▲オプション表示の場合。



▲多国語オプション表示の場合。



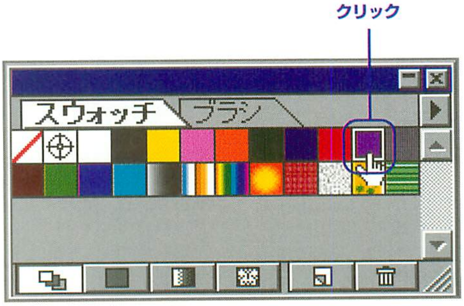
2 これが文字設定パレットです。フォントやサイズなど、文字に対する編集はほとんどこのパレットで行います。



3 文字が選択状態にあることをもう一度確認して、「フォント」の右端の▶をプレスしてメニューを表示させ、フォントを変更します。



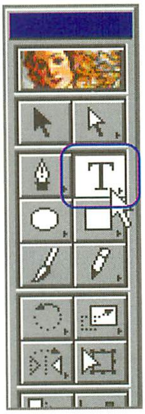
4 少し太めのフォントにしておいてください。フォントが変わると、文字全体の幅が変わることがあります。変わってしまったら、長方形の幅に合うようにサイズを再調整してください。



5 文字の色を変更してみましょう。文字が選択されている状態で、ツールボックスの「塗り」が選択されていることを確認してください。スウォッチパレットから適当な色をクリックします。



6 文字全体の色が変わりましたよね。1文字単位で色を変えることもできるんですよ。次に練習してみましょう。



7 ツールボックスの文字ツールを選びます。



8 1文字、または1単語を選びます。黒く反転されます。文字を文字ツールで選択するとこんなふうに表示されます。

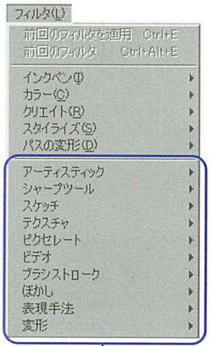


9 スウォッチパレットから適当な色をクリックすると、文字ツールで選択していた部分だけ色が変わります。選択されたままだと反転表示で見にくいでしょうから、余白でクリックして文字の選択を解除し、確認してください。

☞ヒント!!

フィルタメニュー

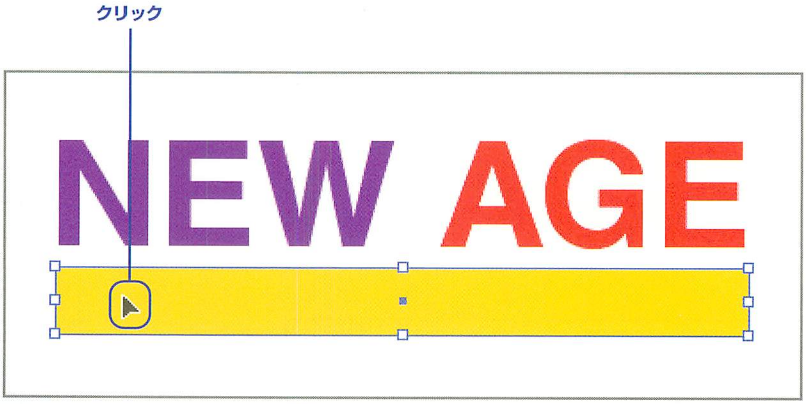
「フィルタ」メニューには項目がすごくたくさんありますが、下の方はPhotoshopのフィルタと同じもので、ビットマップ画像に対して使用するものです。



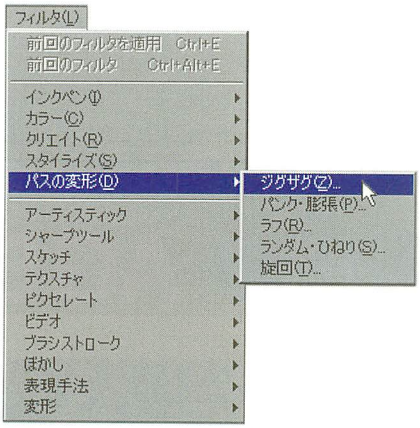
ビットマップ画像に対して使用するフィルタ

フィルタを使った特殊効果

フィルタとは、簡単に図形や文字に特殊効果を付けてくれる便利な機能です。Illustratorにはさまざまなフィルタが用意されていますが、今日はその中から2つほど使ってみます。



1 ツールボックスから選択ツールを選び、長方形をクリックして選択します。

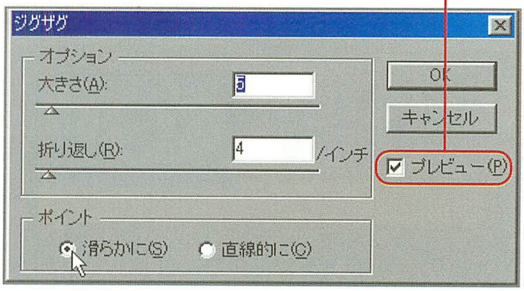


2 「フィルタ」メニューの「パスの変形」から「ジグザグ」を選びます。

☞ヒント!!

ダイアログボックスの「プレビュー」

「プレビュー」にチェックが入っていると、設定変更に合わせて画面上でリアルタイムに結果を表示してくれるので、作業しやすいですよ。



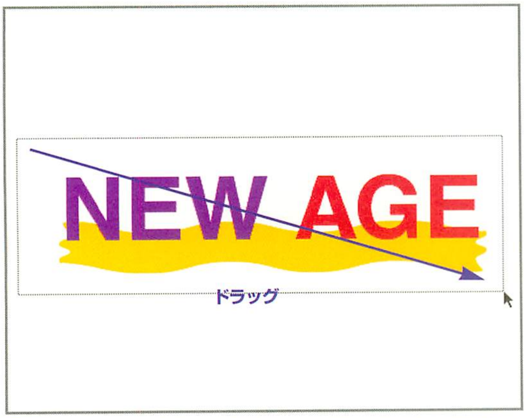
3 「ジグザグ」のダイアログボックスが表示されます。「大きさ」を「5」に、「折り返し」を「4」に、「ポイント」を「滑らかに」します。数値はボックスに直接入力するか、スライダの△をドラッグして変更します。



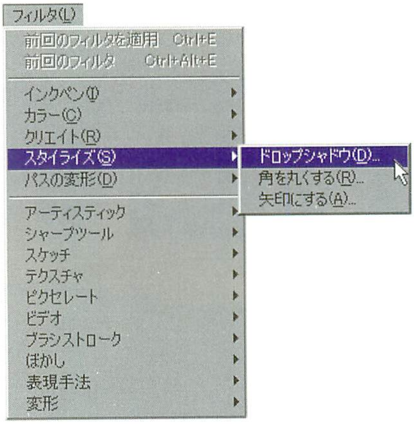
4 「ジグザグ」フィルタをかけるだけで、長方形がこんなリボンに早変わり。このリボンを最初から描くのは、結構熟練してないと無理なんですけど、フィルタを使えばこんなに簡単に効果的な図形を作り出すことができるのです。



5 リボンの位置を調整してみましょう。選択ツールで、リボンが文字と重なるようにドラッグしてください。



6 リボンが文字の下に重なっていることに注目。Illustratorでは、作成した順に上へと重なっていくしくみだからです。では文字とリボンの両方にフィルタをかけてみましょう。選択ツールで両方を囲むようにドラッグし、選択状態にしてください。



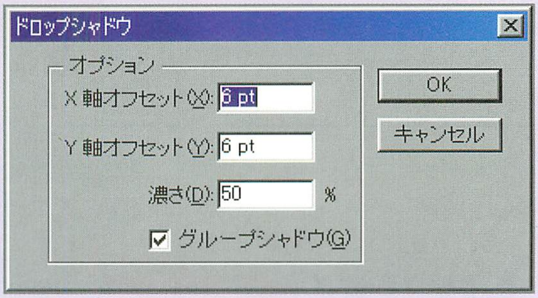
7 「フィルタ」メニューの「スタイライズ」から「ドロップシャドウ」を選びます。

ここがポイント!!

「ドロップシャドウ」ダイアログボックスに数値を入力する

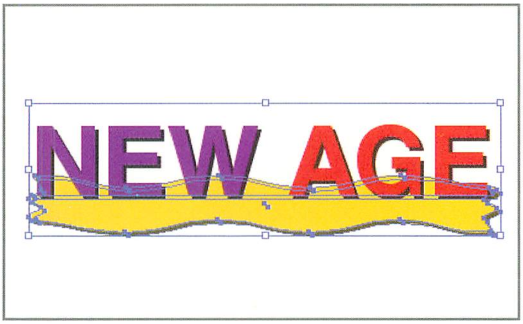
(1)「X軸オフセット」に「6」と入力する
(2) Tabキーを押す
(3)「Y軸オフセット」の数値入力ボックスが選択される
(4)「6」と入力する
(5) Enterキーを押して確定する

▶数値入力ボックスは、Tabキーで移動できます。

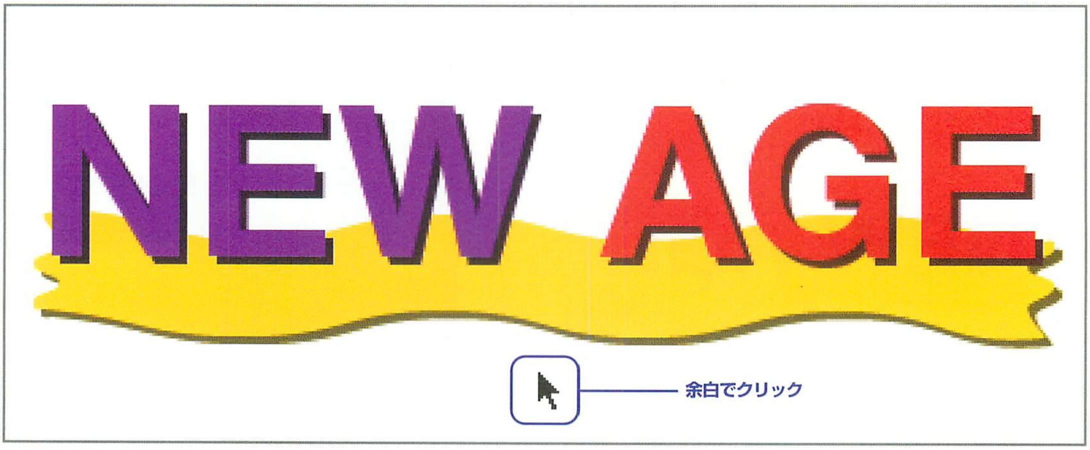




8 「ドロップシャドウ」ダイアログボックスが表示されます。「X軸オフセット」「Y軸オフセット」ともに「6pt」にします。ボックスへの入力は「6」だけで大丈夫。



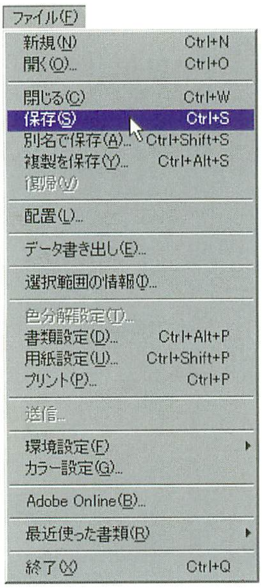
9 文字とリボンの両方に影ができました。しかも、それぞれの色に合わせた影色をちゃんと作ってくれるのです。



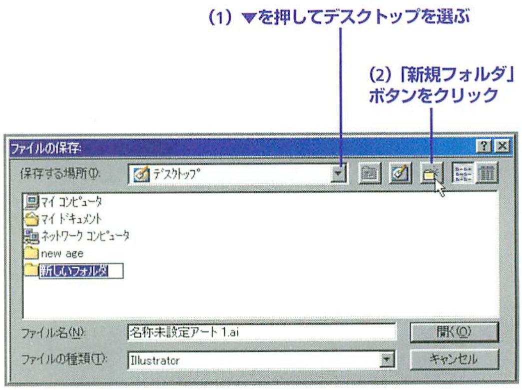
10 これで完成です。余白でクリックして選択を解除し、仕上がりを確認してみましょう。

保存する

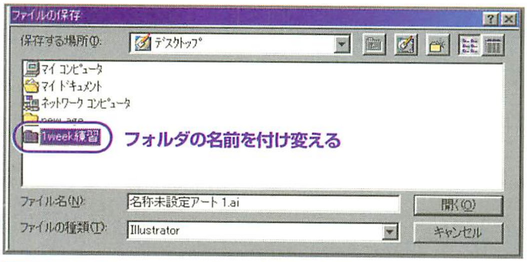
さて今日はいかがでしたか？　長方形と文字を作っただけですが、ちょっとした工夫で簡単にマークみたいなものが作れるのです。それでは今日は終わりにしますが、その前に、せっかく作ったマークを保存しておきましょう。保存操作は知っていますか？　すでに保存操作はバッチリという方は、適当な名前で適当な保存先に、Illustrator形式で保存してください。保存に不慣れな方は、図の手順で操作してください。いくらIllustratorが使えても、保存できないようではしようがないですから、しっかり正しい保存方法を覚えてください。



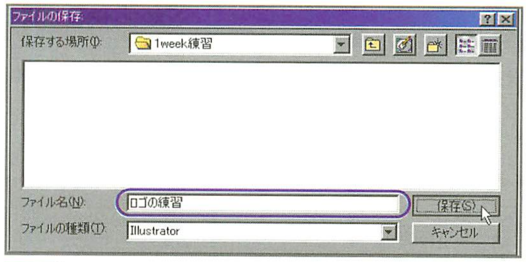
1 「ファイル」メニューから「保存」を選びます。



2 これが保存のダイアログボックスです。保存する場所と保存するファイル名を指定します。ここではデスクトップ上に新しくフォルダを作って、そこに保存してみましょう。「保存する場所」のメニューを開いて「デスクトップ」を選び、「新規フォルダ」ボタンをクリックします。



3 新規フォルダが作成されますので、名前を「1week練習」と付け替えてください。「1week練習」をダブルクリックして開きます。

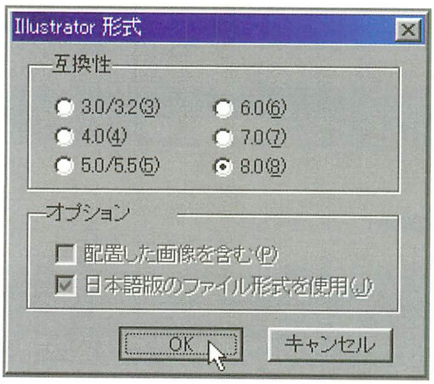


4 「ファイル名」のボックスをクリックして文字を入力できる状態にします（キャレットが点滅します）。適当なファイル名（ここでは「ロゴの練習」）を入力して、「保存」ボタンをクリックします。「ファイルの種類」は「Illustrator」のままで結構です。

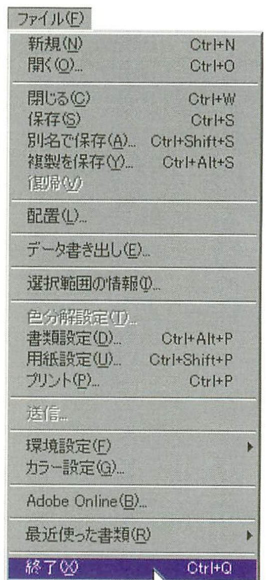
☞ヒント!!

互換性について

互換性の数値はバージョンを表しています。Windows版は、4.0、7.0、8.0の3種類です。それ以外はMacintosh版のみです。Macintoshにデータを持っていくことはできますが、使用しているフォントが異なる場合は、文字関連の設定が変わってしまいます。



5 Illustratorのバージョンを指定する画面になります。もしバージョン4.0の人に渡すような場合は「4.0」を選びますが、ここでは「8.0」で結構です。「OK」ボタンをクリックしてください。



6 お疲れさまでした。保存がきちんとできたら、今日は終わりにしましょう。「ファイル」メニューの「終了」を選びます。

ちょっとコラム グラフィックのためのハードウェア選び

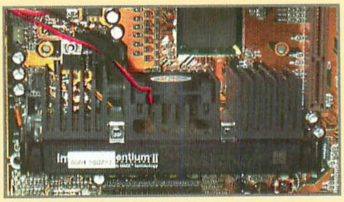
Illustratorのようなグラフィックを扱うアプリケーションの場合、作業のスピードはハードウェアの性能に大きく左右されます。

まず、快適に作業をするためのマシン選びについてですが、高速なマシンを選ぶに越したことはありません。と言ってもWindowsマシンは何種類もありますから、ここでは「高速なマシンを選ぶための基準」についてお話しましょう。

●CPU

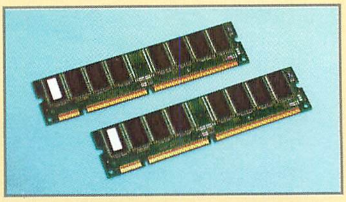
パソコンの頭脳とも言えるものですから、購入時点で最速のものを選びたいところです。執筆時点ではIntelのPentiumIIの450MHzというCPUが最高です。「MHz」の数値が大きいほど高速になります。Intel製以外では、AMDなどの互換CPUでも300MHz以上のものなら快適でしょう。

その他に「MMX Pentium」「Celeron」といった「MMXテクノロジ」に対応したCPUと、「Pentium」のようにMMX非対応のCPUがあります。IllustratorはMMXテクノロジを利用した高速な処理が可能ですから、MMXに対応したCPUにしておくとよいでしょう。複数のCPUを搭載したマルチプロセッサマシンもあります。



●メモリ

理想は128MBですが、最低でも64MBは欲しいところです。パソコンにメモリを足す場合は、「DIMM」「SIMM」といったメモリの形状や、「60ns」「70ns」といった速度が何種類かあるので注意が必要です。静電気にさえ気を付ければメモリの増設は簡単ですが、なるべく詳しい人か、お店やメーカーに相談して正しいメモリを取り付けましょう。



●ハードディスク

ハードディスクの容量は最低でも2GBは必要になるでしょう。Windowsだけでも300MB近くの容量が必要になるうえに、画像データはとても大きくなりますからね。インターネットソフトやワープロソフトも使うつもりなら4GBは無いと困るでしょう。理想は6GBくらいです。

●ビデオボード

現在一般的に入手できるビデオボードなら、Illustratorを使うには充分な性能を備えています。ただし、あまり安物のビデオボードを買うと色が滲んだり、画像がぼやけて正しい情報が得られないばかりか、目が異常に疲れてしまいます。

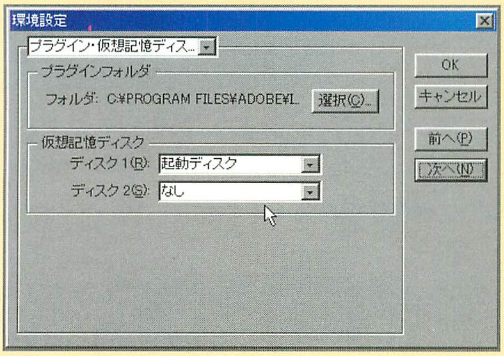
また、Windows98では「マルチモニタ」に対応しています。ビデオボードがマルチモニタに対応していれば、複数のモニタを1つの作業領域として使えるので作業がしやすくなります。

ちょっとコラム 快適に使うために

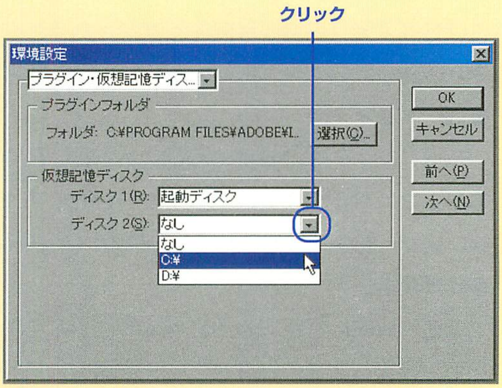
Illustratorには、仮想記憶という機能が付いています。通常、Illustratorで操作するときは、メモリ内でさまざまな処理をしてくれています。複雑な処理になってメモリが足りなくなったときに、メモリの肩代わりをしてくれるのが「仮想記憶」という機能です。設定は「ファイル」メニューの「環境設定」の「プラグイン・仮想記憶ディスク」で行います。初期設定では、「ディスク1」に「起動ディスク」、「ディスク2」は「なし」になっています。「ディスク2」は、「ディスク1」では対応しきれなくなったときに使われるものです。もしも、複数のハードディスクを接続している（またはパーティションで、ハードディスクを分けて使っている）なら、「ディスク2」の設定を行いましょう。

細かいことをいうと、この仮想記憶の設定によりハードディスクのスピードなんかにも関係してきます。速いハードディスクを仮想記憶ディスクにしたほうが、Illustratorもスピーディーに動きます。さらにハードディスクに余裕があるなら、仮想記憶専用のパーティションを作ってあげると理想的です。

とはいえ、いくら仮想記憶を設定しても、メモリが少ないと、遅くなったり処理できないことがあったりしますので、メモリは多いにこしたことはありません。



1 これが環境設定です。



2 仮想記憶ディスクを設定することが可能です。